

## 日長制御型 EOD-heating 処理による トルコギキョウ低コスト春出し栽培技術

トルコギキョウの生産において、秋出し栽培収穫後の11月に定植し、翌春の4月までに収穫するためには、厳寒期に15℃の加温が必要なため暖房経費の増大が問題となっています。一般的なEOD-heating処理技術は、日没後から数時間昇温処理を行い、その後温度を下げることで、順調に開花させつつ暖房経費を低く抑える技術ですが、日没時には気温も低下しているため燃料消費量が大きくなってしまふことが課題です。そこで、福岡県農林業総合試験場では、新たに「日長制御型 EOD-heating 処理技術」を考案し、秋出し栽培トルコギキョウ収穫後の11月に定植し、翌年4月末までに収穫でき、一般的なEOD-heating処理技術に比べ、暖房経費を低く抑えることのできる温度管理技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 新しく開発した日長制御型 EOD-heating 処理とは、外気温の高い16時から光を通さない遮光カーテンでハウス内を暗くし（シェード処理）、同時に20℃、3時間の昇温処理をした後に夜間最低12℃とする温度管理技術です(図1)。
2. 本処理は、夜間最低15℃管理に比べ燃料の消費量を約25%削減できます。
3. 本処理における切り花品質は、夜間最低15℃管理と同等で、収穫日に差はなく、4月末までに9割以上収穫できます(図2)。
4. 二層カーテン既設のハウスにおいて内張り資材をシェード用の遮光資材に張り替えた場合、10aあたり年間約25.5万円の経費削減が期待できます。

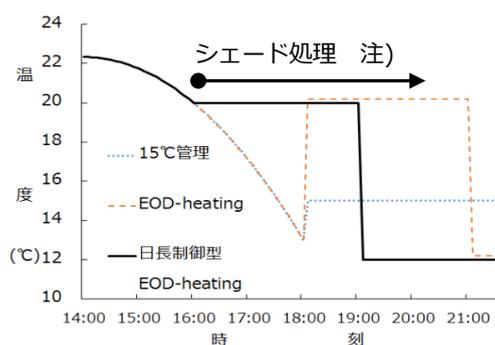


図1 日長制御型 EOD-heating 処理の方法  
注) 16時よりシェード処理し、昇温処理を開始  
シェードは翌朝7時に開放

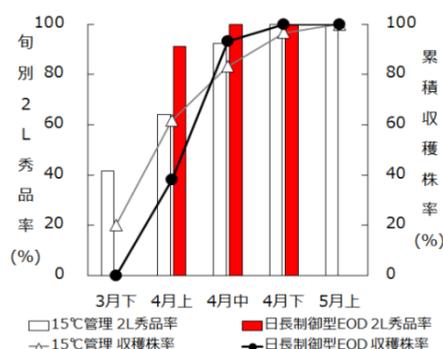


図2 日長制御型 EOD-heating 処理がトルコギキョウ「ボレロホワイト」の収穫に及ぼす影響

### ☆ 活用面での留意点

1. 日長制御型 EOD-heating 処理を行うためには、強制的に暗期の状態を作り出すため内張りカーテンのシェード資材への張替え等が必要です。
2. 日長制御型 EOD-heating 処理の効果は品種によって異なる可能性があります。
3. 詳しいことは、福岡県農林業総合試験場・資源活用研究センター 苗木・花き部 (TEL: 0943-72-2243) へ、お問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)